

金沢美大生

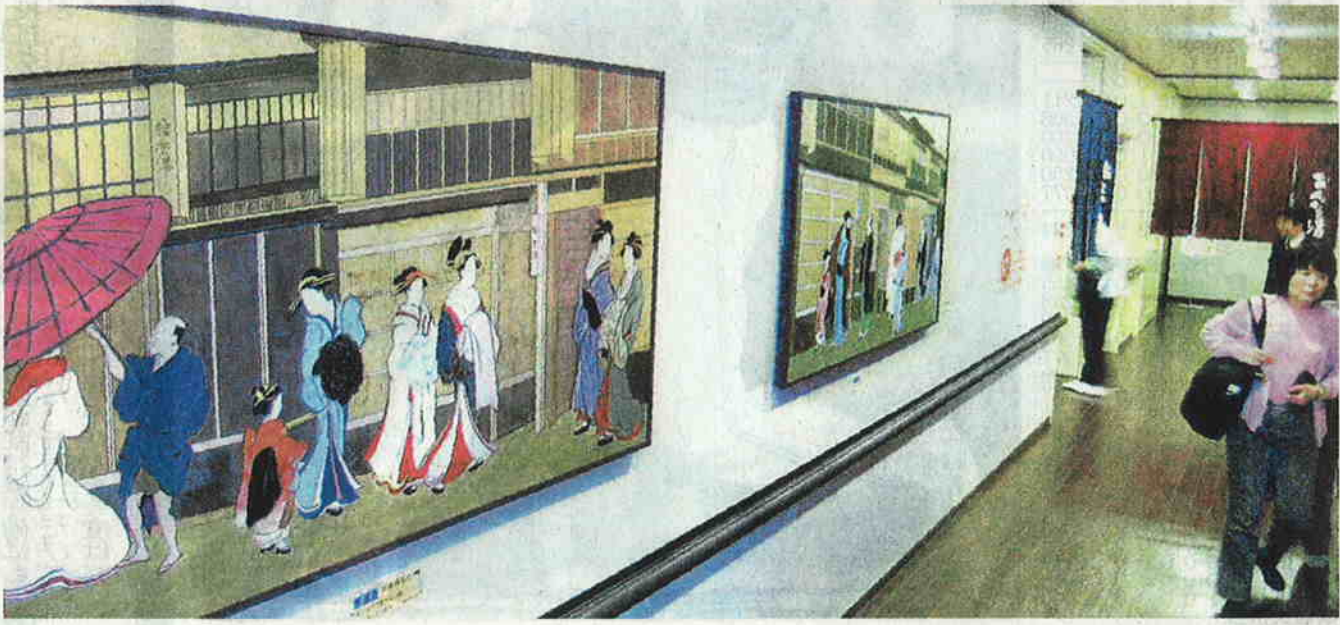
飾り絵で 浴客和ます

昨年十一月にオープンした野々市町若松町の銭湯「極楽湯」に、十九日までに金沢美大の学生が制作した江戸時代の銭湯風俗を描いた飾り絵八点が飾られ、訪れた客の目を楽しませている。

金沢美大生制作の飾り絵は、銭湯を経営する自然堂(東京)の新川隆丈社長(四〇)と小矢部市出身の松本二管理本部長(四五)がアイデアを出し、松本俊二管理本部長(四五)が金沢で九年働いた縁から「当地インテリア」を志向し実現させた。

■ 野々市の銭湯

新川社長がオープンを前に「浴室の壁のポンチ絵は金沢美大生に依頼し、たたらどうだろう」と提案。松本本部長は工程から浴室は無理とし、店内の飾り絵なら大丈夫と請け負い、知人を通じて金沢美大の高橋全さんから七人と日



浴客の目を楽しませる
金沢美大生制作の飾り
絵 野々市町若松町

本画専攻の大澤健さんら三人が応じた。絵は縦九十三センチ、横三百四十三センチから、縦三十七センチ、横八十四センチまでのサイズで、廊下や男女各湯の壁、玄関ホールなどに展示された。浮世絵ふうの銭湯へ行く人々の群像

や、湯あみ姿などが日本画版は岩彩で、油絵版はアクリル絵の具で描かれている。

松本本部長は「想定以上の素晴らしい作品になった。浮世絵風のアレンジが面白い」と話し、制作者の一人、高橋全さん「実社会の要請に自分の技を生かすということで、勉強になった」と感想を語った。

「協力 北國新聞社」